

夏にオススメ！読書感想文の本

★『星の王子さま』サン＝テグジュペリ／作 内藤 濯／訳
岩波書店

人間にとって本当に大切なものは、世界中で読まれてきたロングセラーです。

★『李陵・山月記』中島 敦／著 新潮社

中国が舞台の短編集。「名人伝」…弓を極めた名人の意外すぎる結末とは。

★『精霊の守り人』上橋 菜穂子／著 新潮社

テレビドラマ化もされた冒険小説。ファンタジーの世界にひたってみましょう。

★『西の魔女が死んだ』梨木 香歩／著 小学館

中学校に行けなくなったまい。おばあちゃんの元で魔女修行をすることに。

★『夜のピクニック』恩田 陸／著 新潮社

高校最後のイベント「歩行祭」に参加する高校生たちの青春物語。

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。

編集・発行 長岡市立中央図書館 (0258-32-0658)

図書館HP <https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>

図書館メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

WE'RE YOUNG-JIN

長岡市立中央図書館中高生向け広報誌
ヤンジン Vo1.56 2019.7



図書館活用術

今回は、自習室



中央図書館2階には、自習室、自習コーナーがあります。席数は合わせて36席あり、テスト前や夏休み期間中には、多くの学生の方が勉強のため利用しています。その他、互尊文庫3階には、100席を超える学習室があり、静かで快適な環境で勉強することができます。図書館の自習室、ぜひご利用ください。

※中央図書館は、部屋の利用状況により使えない日があります。

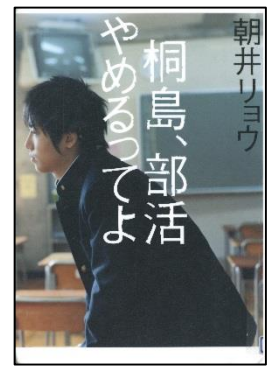
図書館でボランティア活動をしてくれた中高生のみなさんに、オススメの一冊を紹介していただきました！
(編集にあたり、内容は変えずに一部修正しています。)



『白月黄色い月』
石井 睦美／著 講談社

「僕」という記憶喪失の男の子が主人公。僕は、自分が誰なのか分からず、一人悩み続けます。一体「僕」とは何者でしょうか。ぜひ読んで確認してみてください。

(ゆうか)



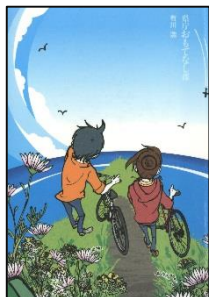
『桐島、部活やめるってよ』
朝井 リョウウ／著 集英社

ある高校のバレー部キャプテンの桐島が、突然部活をやめたことから、5人の高校生に変化が訪れます。5人の思いやセリフには共感できる所があるので、読んでみてください。

(M, N)

お仕事小説

みなさんは、将来どんな仕事についてみたいですか？
希望がある人も、まだない人も、今回は少し参考になるような「お仕事小説」を紹介します。



『県庁おもてなし課』 有川 浩／著 KADOKAWA

高知県庁に実在する「おもてなし課」を題材に書かれた小説です。主人公は入庁3年目の若手職員。県の観光事業を盛り立てるべく仲間と共に東奔西走する様子がテンポよく描かれています。最初は頼りなかった主人公がどのような変化をとげるのか、さわやかな読後感を味わうことができます。一冊です。

『グリーン・グリーン』 あさの あつこ／著 徳間書店

失恋した時に食べたおにぎりの味に感動して農林高校の教師になった真緑（みどり）。都会育ちで農業のことは全くわからず慣れない仕事に落ち込みますが、ある日学校で飼われている豚と会話をすることができるという特技を発見し…。多くの出会いに支えられて教師の道を行んでいく主人公の成長が感じられます。

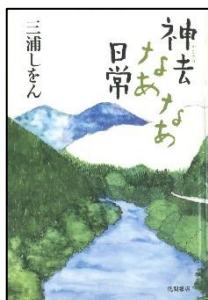


『禁断のパンダ』 拓末 司／著 宝島社

主人公の柴山幸太は神戸でピストロ（小さなレストラン）を営業する料理人。ある日偶然、有名な美食家の老人と知りあう。その老人が店にやってくることになり、幸太は自慢の腕を振るうが…。この本の著者も料理人です。料理の描写が丁寧で、本当に美味しそう！実はミステリーでもある本書。禁断の結末にあっと驚かされます。

『校閲ガール』 宮木 あや子／著 KADOKAWA

ファッション誌の編集者にあこがれて出版社に就職した悦子。しかし配属されたのは校閲部だった！校閲とは、作家が書いた原稿の間違いを訂正したり補うこと。そして次々とやってくるおかしい原稿やトラブル。仕事は完璧、ちょっと生意気でポジティブな悦子が痛快で、元気がもらえます。



『神去なあなあ日常』 三浦 しをん／著 徳間書店

高校卒業後、平野勇気が母親と先生に勝手に決められた就職先は、神去村の「中村林業株式会社」。初めは逃げ出す事ばかり考えていた林業の仕事も、少しずつ慣れてくると、やりがいを感じるようになっていきます。林業の世界に飛び込んだ勇気から、仕事に対する心の変化や、林業への思いが伝わってくるお話です。

『株式会社ネバーラ北関東支社』 瀧羽 麻子／著 幻冬舎

東京の証券会社でバリバリ働き続けてきた28歳の弥生は、とある理由から縁もゆかりもない地方の納豆メーカーへ転職しました。田舎のゆるい生活、そしてあたたかい人たちに囲まれるうちに、弥生の心は少しずつ癒されていきます。人生、疲れた時には充電も大切。随所に織り込まれた納豆エピソードも楽しんでください。

